



◆ 会社の概況

商号 丸善CHIホールディングス株式会社  
(Maruzen CHI Holdings Co., Ltd.)

本社 〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町31番地2

代表番号 03-6735-0785

URL <https://www.maruzen-chi.co.jp>

設立 2010年2月1日

資本金 30億円

事業内容 書籍及び雑誌等の販売、学術情報その他情報提供サービス業、並びに図書館運営受託業務及び図書館等の教育施設の運営代行、建築工事の設計・監理及び請負業、図書、雑誌の出版業等の事業を営む会社の株式を保有することによる当該会社の事業活動の管理 他

◆ グループ会社

- 丸善雄松堂株式会社  
〒105-0022 東京都港区海岸1-9-18
- 株式会社図書館流通センター  
〒112-8632 東京都文京区大塚3-1-1
- 株式会社丸善ジュンク堂書店  
〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町11-24
- 丸善出版株式会社  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17  
神田神保町ビル6階
- 株式会社hontoブックサービス  
〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町31番地2



この報告書は、FSC® 認証紙と、環境にやさしい植物油インキを使用して印刷しております。

◆ 役員

取締役会長	中川 清貴	取締役 常勤監査等委員(社外)	吉田 真一
代表取締役社長	松尾 英介	取締役 監査等委員(社外)	茅根 熙和
常務取締役	五味 英隆	取締役 監査等委員(社外)	大胡 誠
取締役	矢野 正也	取締役 監査等委員(社外)	舟橋 宏和
取締役	谷一 文子		

株主優待として、**見本**商品券を同封しております

100株(1単元)以上保有されている株主様が対象です。

毎年7月31日現在の保有株式数に応じて、全国の丸善、ジュンク堂書店の店舗\*でご利用いただける商品券を、年1回、9月下旬にお送りしております。

よくあるご質問

- Q おつりは出ますか?  
申し訳ございませんが、おつりはお出ししておりません。額面以上でのご利用をお願いいたします。
- Q 有効期限はありますか?  
有効期限はございます。ご送付の翌年11月末日まで有効です。

※詳細はこちらをご覧ください。  
★商品券に同封の「ご利用店舗一覧」  
★当社ホームページ

➔ 株主優待のページはこちら  
<https://www.maruzen-chi.co.jp/ja/ir/stock/yutai.html>



# BUSINESS REPORT

株主・投資家の皆さまへ

第13期(第2四半期累計) 2022.2.1 - 2022.7.31

# 知



売上高構成比



文教市場販売事業 32.3%

売上高 27,095百万円 (前年同期比 - ※1)  
営業利益 1,893百万円 (前年同期比 78.8%)

●教育・研究施設、図書館などの設計・施工において大型案件の完工が減少したこと、大学市場及び公共図書館向け書籍販売が減少したこと、また「収益認識会計基準」等を適用した影響から、売上高は270億95百万円(前年同期322億75百万円)、営業利益は18億93百万円(前年同期比21.2%減)と減収減益となりました。

その他事業 6.5%

売上高 5,431百万円 (前年同期比 - ※1)  
営業利益 101百万円 (前年同期比 47.3%)

●総合保育サービス事業は堅調に推移しましたが、店舗内装業は前期並みの売上は確保したものの増加傾向には転じていないこと、パソコンの修理・アップグレード設定等事業において半導体不足の中、一部の部品に供給遅延が生じていること、行動制限緩和後も客足が戻っていないこと、また「収益認識会計基準」等を適用した影響等から、売上高54億31百万円(前年同期64億94百万円)、営業利益1億1百万円(前年同期比52.7%減)と減収減益となりました。

出版事業 2.6%

売上高 2,156百万円 (前年同期比 - ※1)  
営業利益 236百万円 (前年同期比 137.6%)

●専門分野として『ポロバシユ 数学の技法』『医学史事典』、児童書として「ちびちびうさまる ふわふわだいすき」「にじいろフェアリーしずくちゃん6」など、合計新刊99点(前年117点)を刊行いたしました。専門書分野の新刊刊行の遅れの影響で売上高は21億56百万円(前年同期22億78百万円)と減収となりました。一方利益面は、児童書分野が堅調であったことに加え、原価及び販管費の削減により営業利益は2億36百万円(前年同期比37.6%増)と増益となりました。

店舗・ネット販売事業 38.8%

売上高 32,605百万円 (前年同期比 - ※1)  
営業利益 △91百万円 (前年同期比 - )

●知育系雑貨の拡大や小規模文具売場の書籍単独店への導入などに取り組みましたが、3月21日にまん延防止等重点措置が解除された以降も来店者数がコロナ前の水準には戻っていない中、感染が再拡大したこと、また「収益認識会計基準」等を適用した影響等により、売上高は326億5百万円(前年同期348億73百万円)と減収となり、利益面につきましても91百万円の営業損失(前年同期3億82百万円の営業利益)となりました。

図書館サポート事業 19.8%

売上高 16,646百万円 (前年同期比 - ※1)  
営業利益 1,036百万円 (前年同期比 94.3%)

●図書館受託館数は期初1,697館から100館増加し、2022年7月末時点では1,797館(公共図書館576館、大学図書館233館、学校図書館他988館)となり堅調に推移しました。その結果、売上高は166億46百万円(前年同期156億64百万円)と増収となりましたが、人件費等の原価、販管費が増加したことにより営業利益は10億36百万円(前年同期比5.7%減)と減益となりました。

※1 当期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、売上高に大きな影響が生じるため、売上高の前年同期比は記載しておりません。各セグメント別の売上高の影響額は、文教市場販売事業は29億9百万円、店舗・ネット販売事業は12億円、その他事業は1億円それぞれ減少し、出版事業は1百万円増加しております。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループの2023年1月期第2四半期累計業績は、売上高839億35百万円(前年同期915億85百万円)、営業利益は16億51百万円(前年同期比40.6%減)、経常利益は15億95百万円(同39.2%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、9億25百万円(同43.7%減)と、大変遺憾ながら減収減益となりました。なお、売上高につきましては、収益認識に関する会計基準の適用に伴う減収42億9百万円が含まれております。

前年同期は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、自治体等の年度予算の執行が2・3月に集中したことで、例年より売上が増加していたことも当期減収減益の一因ではありますが、文教市場販売事業での教育・研究施設の設計・施工案件減少や、店舗・ネット販売事業における市場環境の低迷がマイナス要因となり、厳しい業績となりました。

セグメント別では、文教市場販売事業は、大学等の設備投資計画の進捗が遅れたことで、上記の通り教育・研究施設等の設計・施工の大型案件が減少いたしました。加えて、公共

図書館・学校図書館向け事業で先行投資を含むシステム費用増があったことなどから、減収減益となりました。

店舗・ネット販売事業は、書籍販売市場全体の低迷と、大都市中心部等に立地する大型幹店舗でコロナ後の客足の戻りが鈍かったこと、加えて電気代の大幅な値上がりにより、経費削減施策の効果が限定的なものにとどまり、減収減益となりました。

図書館サポート事業は、順調に受託図書館数を伸ばしましたが、一方で、持続的なサービス向上に欠かせない優れた人材の確保のための処遇向上を進めたことから、増収減益となりました。

出版事業は、専門書分野での新刊刊行の遅れがあったことで減収となりましたが、児童書分野で話題作があったことなどが寄与し増益となりました。

以上のとおり第2四半期累計期間は大変厳しい業績となりましたが、通期業績見通しを達成すべく、文教市場販売事業では、電子図書館システムや電子教材、タブレット用図書検索ソフトの拡販などに注力するとともに、店舗・ネット販売事業では、新規商材、新規業態の開発・導入や、一層の生産性向上と、業務効率化による経費削減を図り収益改善に取り組んでまいります。

さらに、新規成長領域として、デジタル化が進む中での新たな書籍の提供、活用する方法として、電子書籍等を用いたデータベース事業やサブスクリプションビジネス、またこれまでの大学や研究者との深い繋がりをブランド力を活かした、オンラインでの学習機会の提供などの新規事業開発に着手しており、2024年度中の事業化を目指しております。

コロナによって生じた行動変容がWITHコロナ社会の新しい生活様式として定着していく中で、当社では、経営理念「知は社会の礎である」のもと、引き続き事業拡大と、事業活動を通じた社会への貢献を目指してまいります。その際の基本的な姿勢として、社会が育むべき多様性の尊重や、環境問題や教育問題を中心とした、持続可能性を高めるための取り組みなど、SDGsの理念を事業活動に反映すべく、サステナビリティ基本方針と重点課題を制定して推進しております。

株主の皆様には、引き続き当社事業にご理解を賜り、ご指導ご鞭撻いただきたくお願い申し上げます。



代表取締役社長  
松尾 英介

# TOPICS

トピックス

## 愛知県豊田市に丸善 豊田T-FACE店、未来ラボステーション YYがオープン

2022年3月25日、愛知県豊田市の商業施設「T-FACE」A館6階に、丸善ジュンク堂書店の「丸善 豊田T-FACE店」と、それに隣接し丸善雄松堂が運営するイベントスペース「未来ラボステーション YY」を同時オープンいたしました。

丸善 豊田T-FACE店は、専門書からコミック、雑誌までフルジャンルの書籍を取り揃えた約360坪の店内に、ゆっくりと過ごせる児童書売場や座り読みスペースを設け、地元の幅広い層のお客様に日常使いいただける居心地の良い空間となっています。また、未来ラボステーション YYは、丸善雄松堂のスタッフによる絵本の読み聞かせや親子プログラミング教室、ワークショップなどを定期的に開催しています。

書店とイベントスペースが連携、協力することで、子どもたちには「本とまなび」に触れ合う機会を、その親御さんには子どもに贈りたい本、読んで欲しい本選びのお手伝いを、グループのノウハウを融合させて提供していきます。



丸善 豊田T-FACE店



未来ラボステーション YY

## Maruzen eBook Libraryにてオーディオブックの提供を開始

丸善雄松堂は(株)オトバンクと連携し、電子書籍配信サービス「Maruzen eBook Library (MeL)」を通じて、全国の大学図書館、短期大学、高校、専門学校、企業・研究所などを対象にオーディオブック\*の提供を開始しました。

2021年11月開催の図書館総合展において企画したオーディオブックに関する講演をきっかけに、「オーディオブックを施設に導入したい」という新たなニーズを掘り起こし、具体化させたことで実現しました。MeLでは従来の書籍のほかに動画・音声付コンテンツを既に提供していましたが、さらにオーディオブックを追加することで様々な種類のコンテンツが一つのプラットフォームで利用可能となりました。

丸善雄松堂は、今回のオーディオブック提供で「オーディオブックがあたりまえにある世の中」の実現を目指すとともに、今後も「読む」だけでなく「聴く」という本の楽しみ方を広めていくために、大学や企業、自治体との連携を加速させ、オーディオブックに対する一般ユーザーの認知も向上させてまいります。

\* オーディオブックとは、ナレーターや声優が朗読した書籍の音声を、パソコンやスマートフォンで聴くことのできるサービスで、紙の本、電子書籍に次ぐ「第三の書籍」として拡がりを見せています。



## GIGAスクール構想対応「ぼけとしょ」をリリース

図書館流通センターは、TOOLi-Sタブレット版「ぼけとしょ」を開発し、2022年7月にリリースいたしました。

「ぼけとしょ」はGIGAスクール構想で配布されたタブレット端末を使い、子どもたちが自ら多角的に目的の本を探ることができる図書検索システムです。図書館流通センターの作成する書誌データ「TRC MARC」と学校ごとの蔵書データを紐づけることで、自分の学校に所蔵されている本を探せるため、学校図書館の利活用に繋がります。また、LibrariE & TRC-DL\*へのアクセスも可能で、紙と電子の本の世界を繋ぐことができるシステムとなっています。

フリーワード検索のほか、教科書単元から関連書籍を検索できる機能、ランダムに図書を紹介する「ガチャ本<sup>®</sup> (がちゃぼん)」機能、感想をスタンプで表現する機能など、子どもたちが楽しみながら本と出会う機会をつくり、本への興味を広げるためのサポートを様々な角度から提供いたします。\* LibrariE & TRC-DLとは、クラウド型電子図書館サービス&コンテンツです。



ぼけとしょで本を探す様子

## 那須塩原市でLibrary Book Circusを開催

栃木県的那須塩原市図書館みると那須塩原市まちなか交流センターくるるにおいて、2022年5月28日・29日の2日間、「Library Book Circus (LBC)」を開催いたしました。

LBCは、図書館をサーカス、そこに集まる本を曲芸師に見立て、各地を回りながら本と図書館の魅力を発信するリアルイベントです。街に関連した書籍展示「那須塩原の10のこと」、音を使った「絵本のうたいきかせ」「ライブラリーライブ」、地域ぐるみで実施した「この街、この一冊」「街×人トーク 市長に聞いてみよう!」などを催し、普段の図書館とは一味違った特別な空気感を味わえるイベントになりました。

LBCは今後も各地の図書館を巡り、地域に根づいた魅力を発信していきます。



みる前の芝生広場にて「絵本のうたいきかせ」の様子

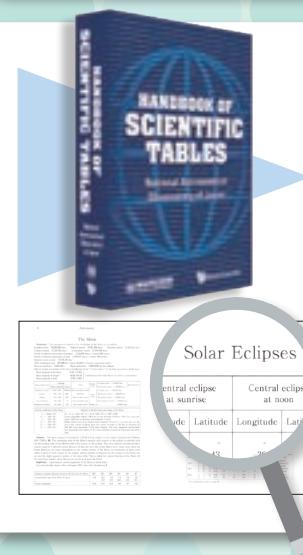
## 『理科年表』英語版を出版

丸善出版は、2022年5月に、シンガポールに本社を置くWorld Scientific Publishing Co. Pte. Ltd.と、『理科年表』の英語版『Handbook of Scientific Tables』(自然科学研究機構 国立天文台 編)を共同で出版いたしました。

理科年表は、国立天文台が編纂するサイエンスの全分野を網羅した、世界的にも類を見ないユニークなデータブックで、1925(大正14)年の創刊以来、毎年発行を続け、まもなく創刊100年という長い歴史を有しています。以前より英語版への要望の声が高く、理科年表の執筆に携わる多くの研究者・官公庁の協力のもと、今回ようやくそれに答えることができました。

この度出版した英語版は天文、気象、物理/化学、地学、生物、環境の6部門からなり、暦部など一部コンテンツを除いて、理科年表をそのまま英訳しており、世界中の研究者・技術者・教育関係者・学生などにご活用いただける内容になっています。

\* 本書は洋書扱いとなるため、洋書を販売している書店や、オンライン書店等で購入可能です。また、e-book版でも提供しております。



## 連結財務データ

### ◆ 財政状態 (単位: 百万円)

	当第2四半期末 (2022年7月31日現在)	前期末 (2022年1月31日現在)
総資産	123,934	128,357
●流動資産	86,932	91,226
●固定資産	36,992	37,113
(有形固定資産)	22,337	22,566
(無形固定資産)	1,548	1,441
(投資その他の資産)	13,106	13,104
●繰延資産	9	17
負債	79,666	84,827
●流動負債	54,910	59,251
●固定負債	24,756	25,575
純資産	44,267	43,530
●株主資本	43,712	42,941
●その他の包括利益累計額	△ 267	△ 254
●非支配株主持分	822	842

### ◆ 損益の状況 (単位: 百万円)

	当第2四半期(累計) (2022年2月1日から 2022年7月31日まで)	前第2四半期(累計) (2021年2月1日から 2021年7月31日まで)
●売上高	83,935	91,585
●営業利益	1,651	2,781
●経常利益	1,595	2,622
●親会社株主に帰属する四半期純利益	925	1,642

### ◆ キャッシュ・フローの状況 (単位: 百万円)

	当第2四半期(累計) (2022年2月1日から 2022年7月31日まで)	前第2四半期(累計) (2021年2月1日から 2021年7月31日まで)
●営業活動によるキャッシュ・フロー	8,554	11,834
●投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 790	△ 761
●財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,855	△ 10,047
●現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 12	△ 10
●現金及び現金同等物の増減額	1,895	1,014
●現金及び現金同等物の期首残高	23,179	22,667
●現金及び現金同等物の四半期末残高	25,074	23,681

## グループ一覧

当社グループは、日本の知の発展のために、紙や電子の垣根を越えて、あらゆる利用者が「必要なときに、必要な形態で」知を得ることのできる快適なプラットフォームを提供してまいります。

### 丸善CHIホールディングス(株)



## 株式情報 (2022年7月31日現在)

### ◆ 株式の状況

発行可能株式総数	240,000,000 株
発行済株式の総数	92,554,085 株
株主数	37,230 名

### ◆ 大株主一覧

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
大日本印刷株式会社	50,828,336	54.92
株式会社フォルトウナ	4,217,810	4.55
株式会社講談社	4,028,000	4.35
株式会社トーハン	3,694,406	3.99
有限会社淳久堂	2,648,000	2.86
株式会社小学館	2,203,500	2.38
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,026,600	2.18
丸善CHIホールディングス従業員持株会	1,367,877	1.47
石井 昭	1,306,426	1.41
工藤 恭孝	1,189,600	1.28

※持株比率は自己株式を控除して計算しております。

### ◆ 所有者別株主分布状況



### ◆ 所有者別株式分布状況



※個人・その他には自己株式7,563株を含んでおります。

## 株主メモ

事業年度	毎年2月1日から翌年1月31日まで
基準日	毎年1月31日
株主総会	毎年4月
1単元の株式数	100株
公告の方法	電子公告による公告 但し、事故その他やむを得ない事由によって 電子公告による公告をすることができない 場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
<公告掲載URL>	https://www.maruzen-chi.co.jp
上場	東京証券取引所スタンダード市場
証券コード	3159

### 株式事務の取扱場所

株主名簿管理人 及び特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内1-4-1 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 同事務取扱場所	〒168-0063 東京都杉並区和泉2-8-4
[郵便物送付先] [電話照会先]	三井住友信託銀行株式会社証券代行部 電話フリーダイヤル0120-782-031
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社全国各支店

### 住所変更、単元未満株式の買取、 配当金受取方法の変更等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。  
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました  
株主様は、特別口座管理機関である三井住友信託銀行株式会  
社にお申し出ください。

### 未払配当金のお受け取りについて

ゆうちょ銀行などでの払渡期間を経過した配当金のお受け取り  
については、三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。  
当社は、定款の定めにより、配当金のお支払期限を支払開始か  
ら3年としております。配当金はお早めにお受け取りください。